

「楽しい、またやりたい」と感じることもできる

体育科の実践

—運動が苦手な生徒の困り感に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）
氏名（西山 技）

今日、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められる。スポーツは生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど人間形成に重要な役割を果たすものである。子どもたちが積極的にスポーツに取り組む態度を育成することが必要であり、学校体育を通じて、子どもたちが十分に体を動かし、スポーツの楽しさや意義・価値を実感することのできる体育科の実践を試みた。

本研究では、中学校第2学年における球技「バレーボール」の実践から成果と課題を報告するとともに新たな授業モデルを提案することを目的とし、アンケートや子どもたちの変容の観察、振り返りをもとに検証を行った。

異質協同グループ学習を通して、自分とは違う考え方や表現の仕方、上手さと対面し、他者理解の深まる活動になった。また、個人の技能向上やチームの成長を実感し、スポーツの楽しさや面白さを感じることで生涯スポーツへの可能性を見出せた。今後は、他領域での実践や小学校体育、特別支援学級での授業モデルについても考えていくことが望まれる。